

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

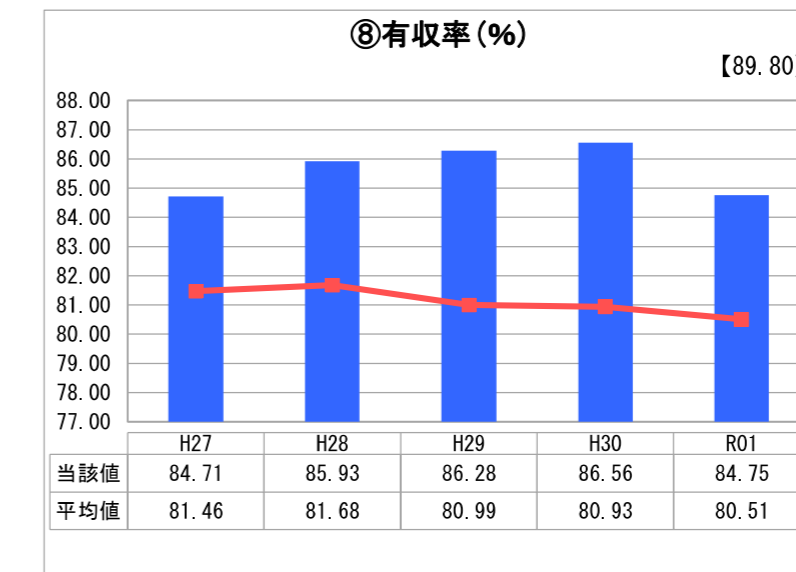
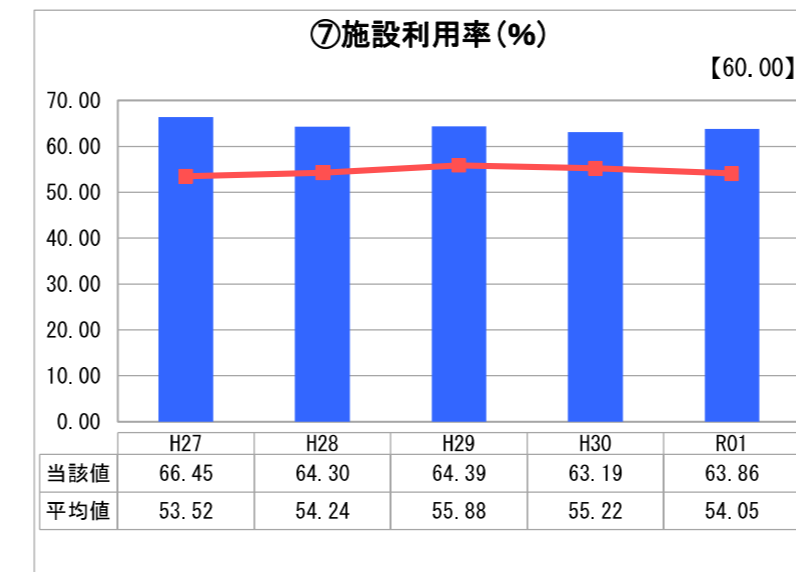
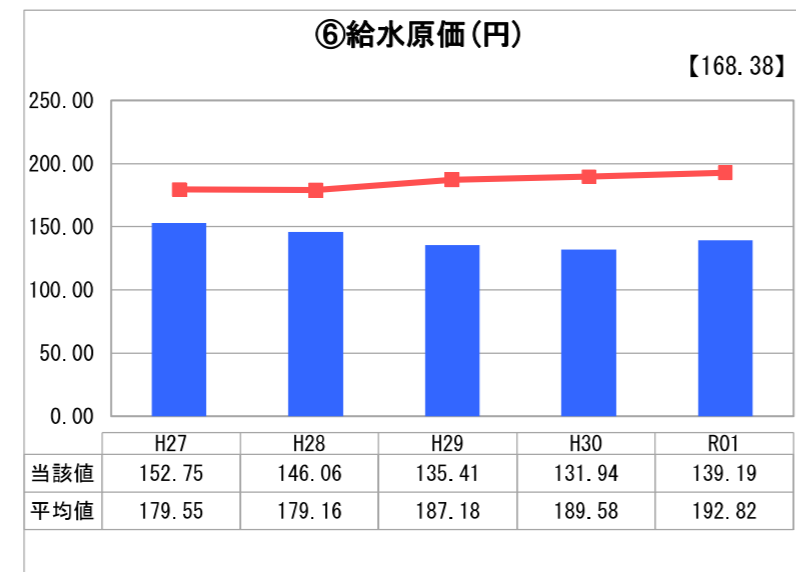
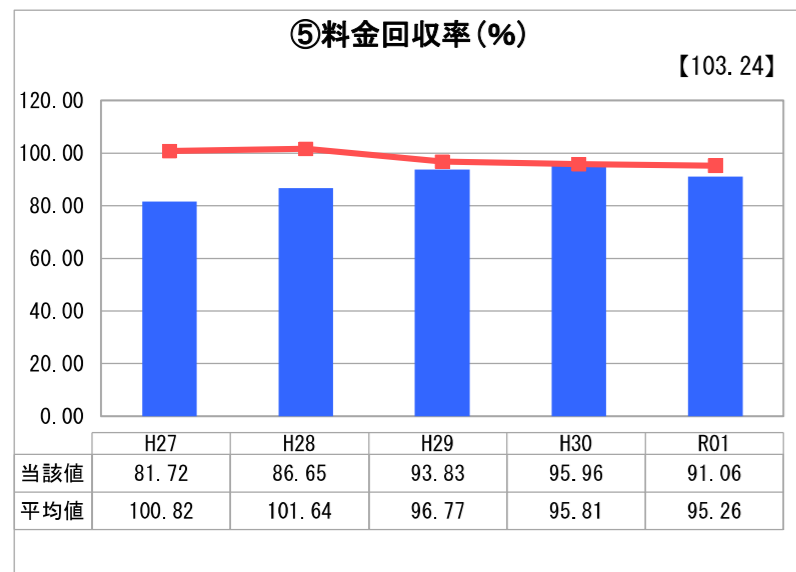
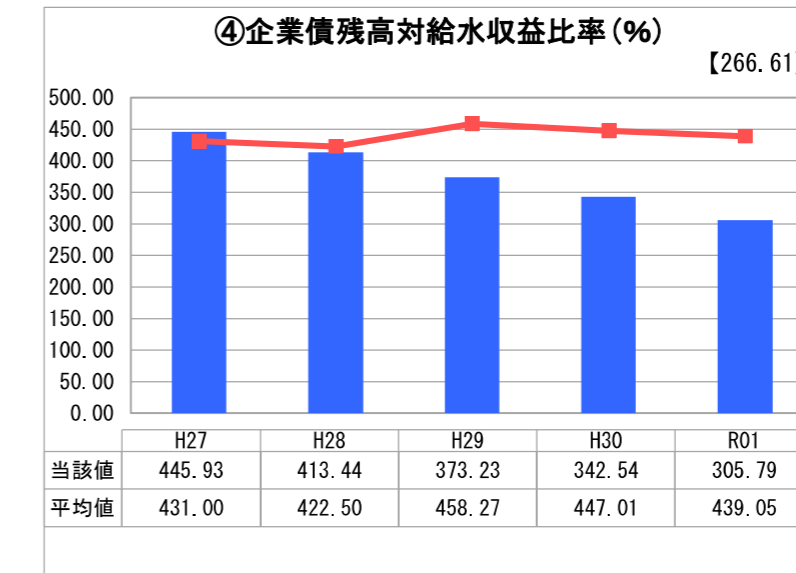
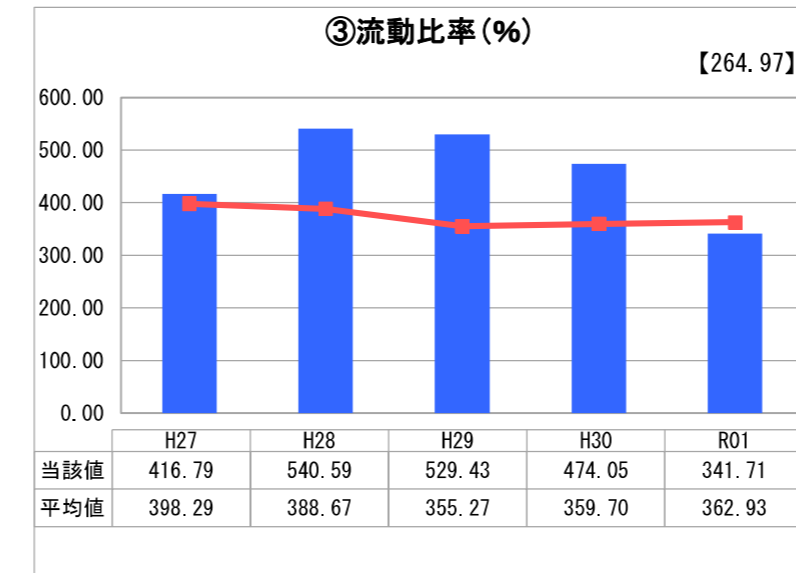
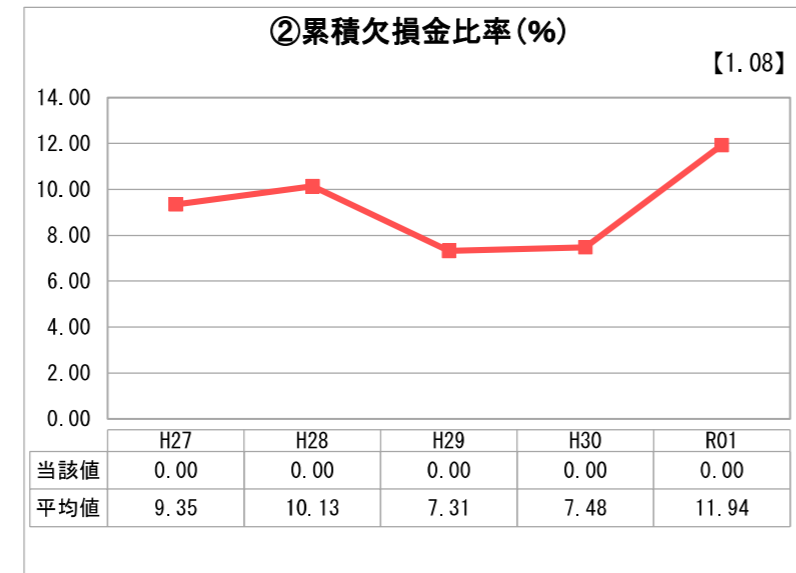
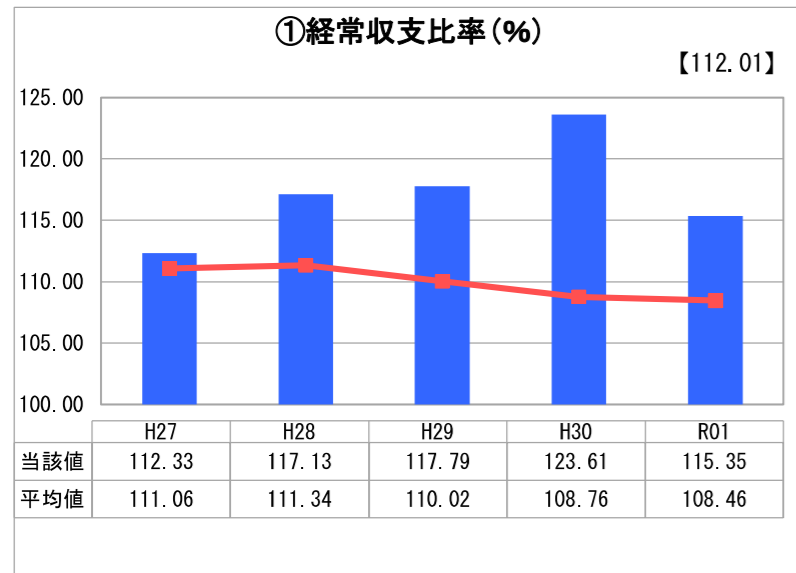
埼玉県 美里町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	74.64	99.60	2,266	

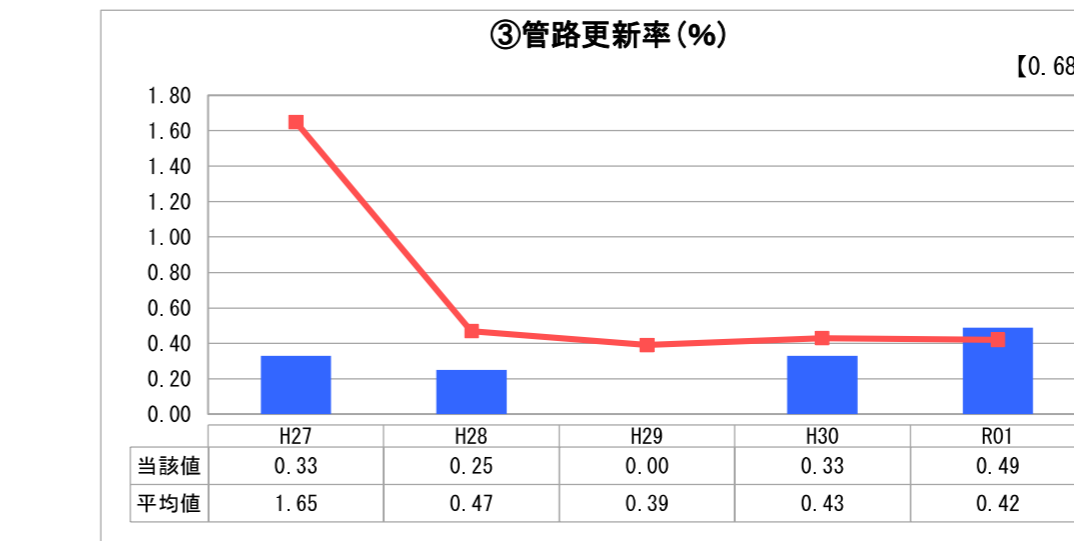
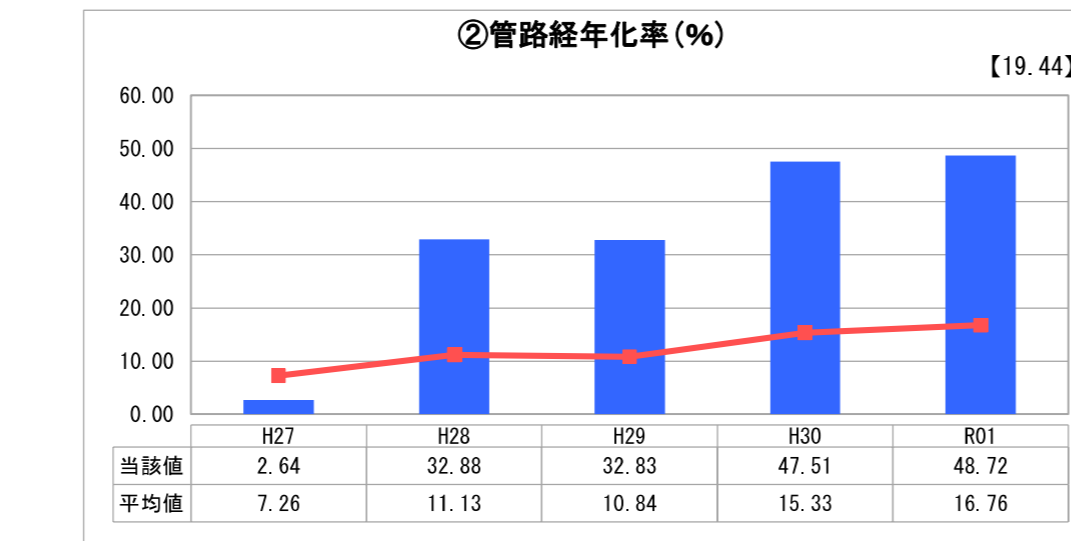
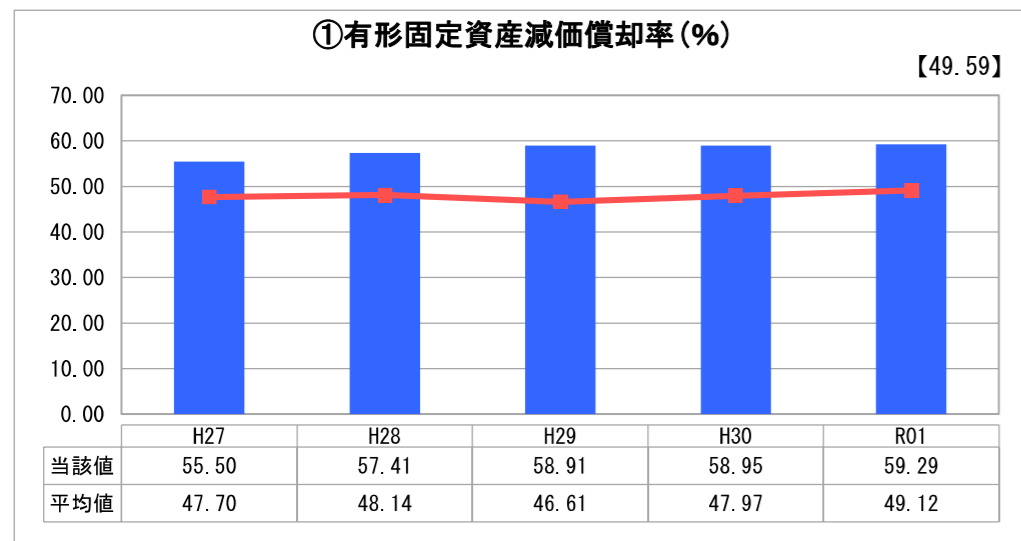
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,205	33.41	335.38
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,122	32.84	338.67

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率  
過去5年間、類似団体を上回っている。給水収益の他に一般会計からの繰入金で収入を賄っているためである。平成30年度は経常費用の減少により過去5年で一番高くなっているが、令和元年度は平成29年度以前とほぼ同様の水準となっている。
- ② 累積欠損比率  
平成27年度から累積欠損金は発生していない。
- ③ 流動比率  
過去5年間では平成30年度まで類似団体を上回っていた。令和元年度は類似団体を下回ったが、指標は100%を超えているため負債を賄える状態にある。
- ④ 企業債残高対給水収益比率  
企業債残高が減少し、新たな借入も行っていないため、給水収益に対する企業債残高の割合も減少している。
- ⑤ 料金回収率  
過去5年間では平成30年度まで類似団体を上回っていたが、100%以下の水準で推移しており、令和元年度は類似団体を下回った。給水に係る費用が給水収益で賄いきれず、一般会計繰入金で不足分を補填しているためである。今後、適切な料金収入の確保に努めていく。
- ⑥ 給水原価  
減価償却費などの経常費用の減少に伴い減少傾向にあり、類似団体を下回っているため、投資の効率化や維持管理費の削減に努めていく。
- ⑦ 施設利用率  
類似団体を上回る水準であるため、施設利用状況は適切であり、適正な規模を保持している。
- ⑧ 有収率  
漏水修繕等を行っており、類似団体を上回る水準である。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率  
施設・管路等の老朽化が進み、耐用年数の近いものが増加しており、類似団体を上回っている。施設更新等を検討していく。
- ② 管路経年化率  
平成28年度から類似団体を上回っており、今後も法定年数を過ぎた管路の増加が見込まれる。
- ③ 管路更新率  
令和元年度は過去5年間で初めて類似団体を上回ったが、今後も老朽化の進行を見据え計画的に管路更新を行っていく。

### 全体総括

経営の健全性・効率性については、類似団体の平均値と比較しても著しい悪化は見られない。しかし、収入面を見ると、給水収益だけでは財源の確保ができず、一般会計からの繰入金に依存している状態である。支出については、減価償却済の資産が増え、ピーク時よりも経常費用が減少している傾向が見られる。収支のバランスを考えつつ、給水収益のみで水道事業の経営を行えるように、段階的な料金改定を検討していく必要がある。

老朽化の状況については、平成28年度以降類似団体の平均値を大幅に上回って推移している。管路更新率については、令和元年度に類似団体の平均値を上回ったが、今後も施設や管路の老朽化に備え、長期的な計画を立て更新を進めていく必要がある。

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県 美里町

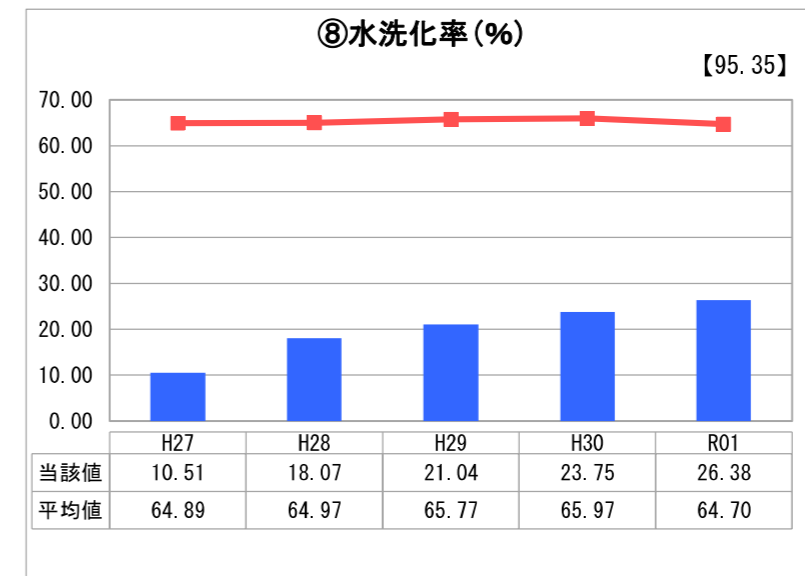
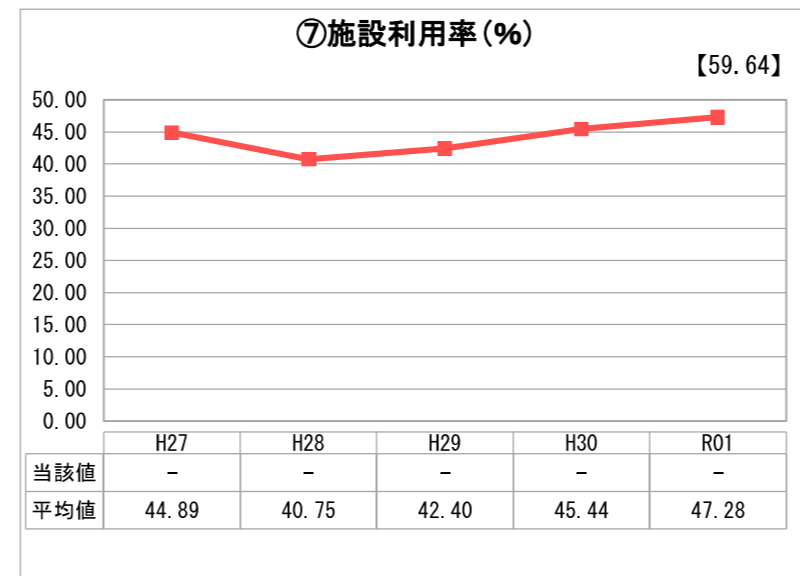
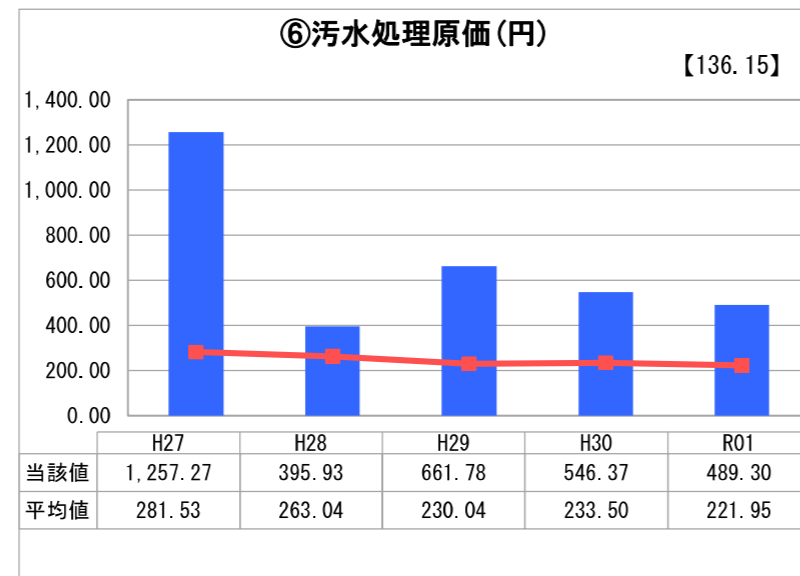
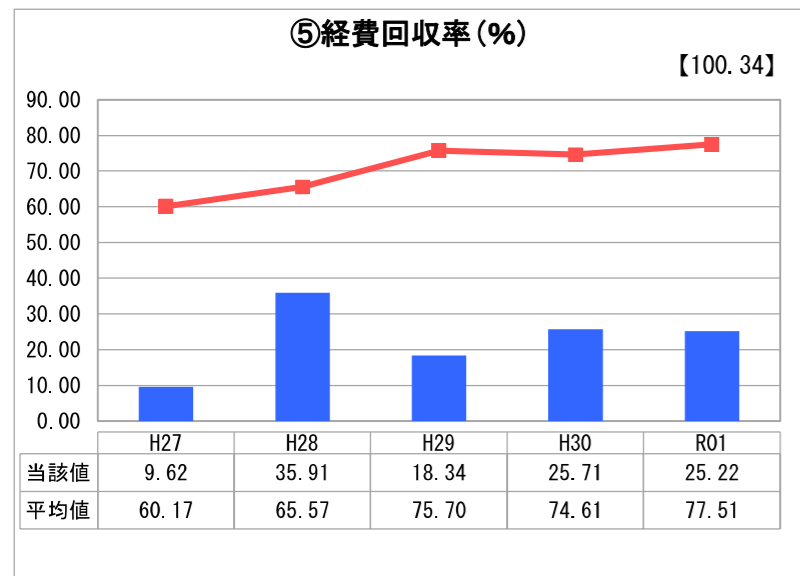
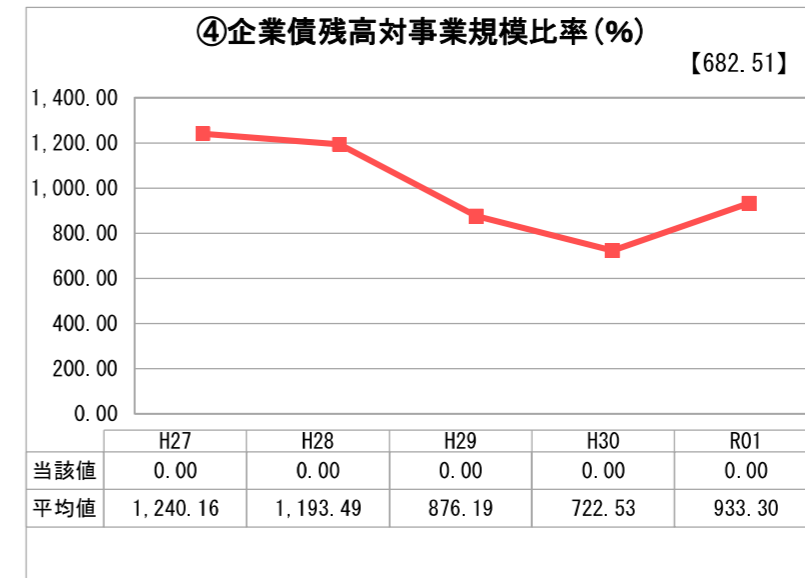
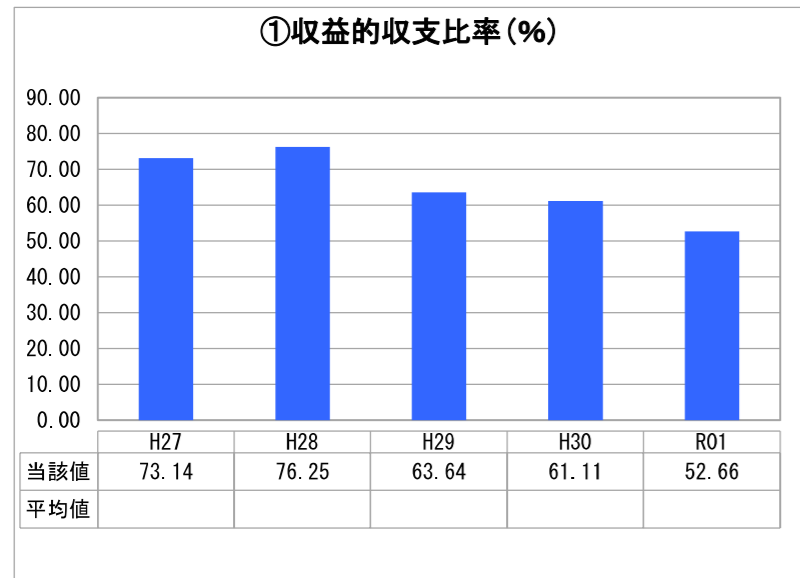
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	7.13	100.00	2,200

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,205	33.41	335.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
796	0.28	2,842.86

**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率  
前年度に比べ総収益が微減となったほか、地方債償還金が増加したことにより、収益的収支比率が前年度より減少している。

④企業債残高対事業規模比率  
地方債残高の全てを一般会計で負担しているため、当指標は0となっている。

⑤経費回収率  
加入件数の増加による料金収入は増加となったものの維持管理費の増加により、経費回収率が前年度に比べ微減している。

⑥汚水処理原価  
加入件数の増加による年間有収水量の増加によって、前年度と比べると汚水処理原価が減少している。

⑧水洗化率  
現在処理区域内人口は前年度に比べ大きく増減していないが、接続件数が増加しているため、水洗化率が増加している。

供用開始後間もないため、接続件数が少なく使用料金も少ないため一般会計からの繰入金に依存している状況である。

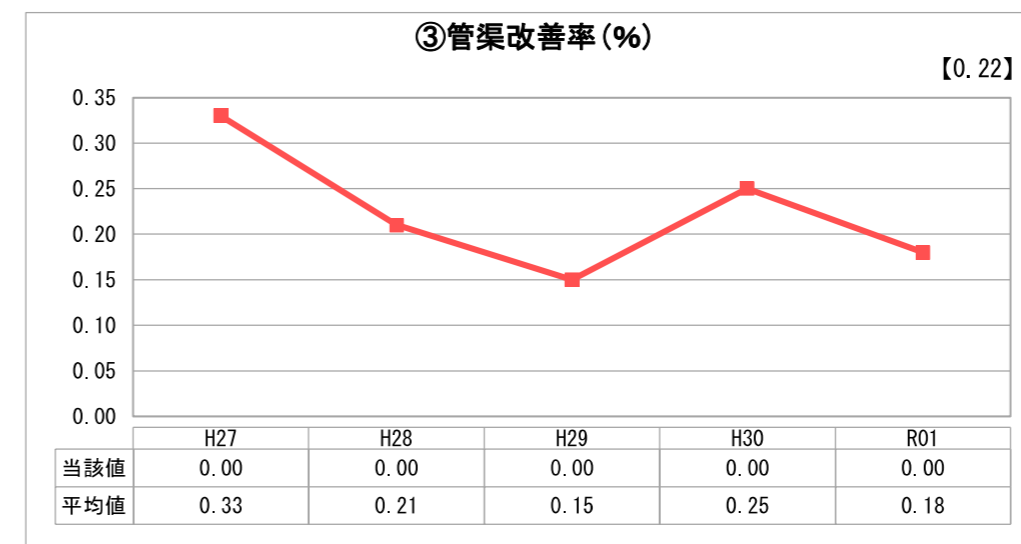
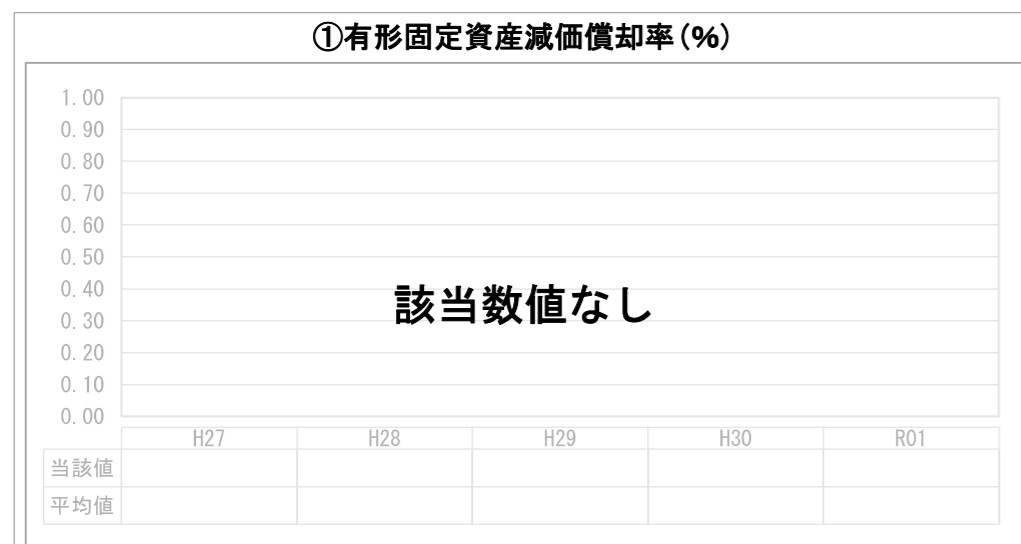
各項目とも類似団体と比較すると大きな差があるため、加入促進等により水洗化人口及び有収水量の増加を目指すほか、料金改正を検討する等使用料収入の確保に向けた取組みが必要である。

### 2. 老朽化の状況について

平成25年に供用開始しており、比較的新しい管渠であるため、現時点での老朽化対策は不要である。

しかし、管渠やマンホールの状態を把握するために巡回・点検を実施する必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

公衆衛生の向上や河川等の水質保全による良好な環境の創造を目的としつつ、安定した事業経営を行うために接続の推進や料金改正の検討等による使用料収入の確保に努める必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

埼玉県 美里町

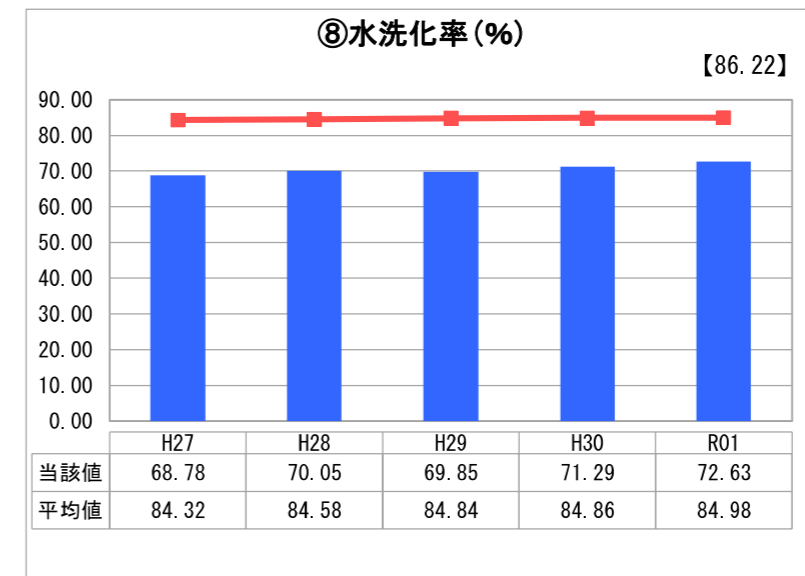
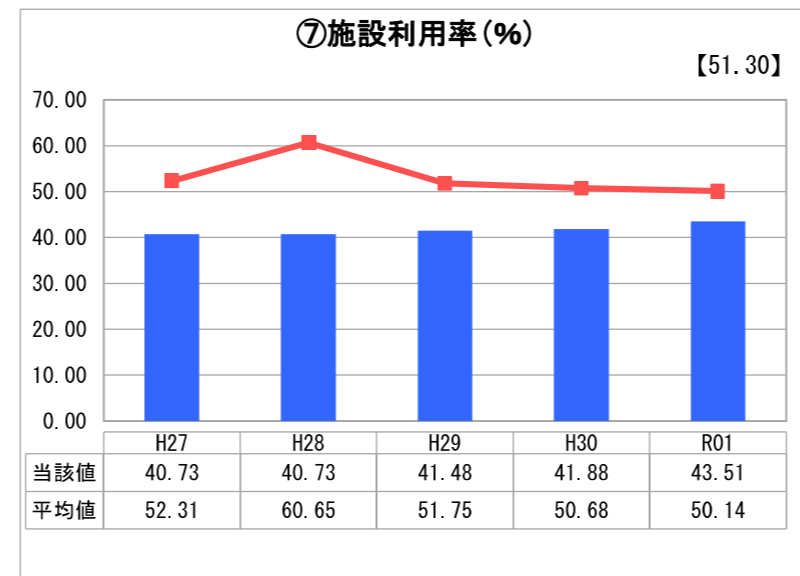
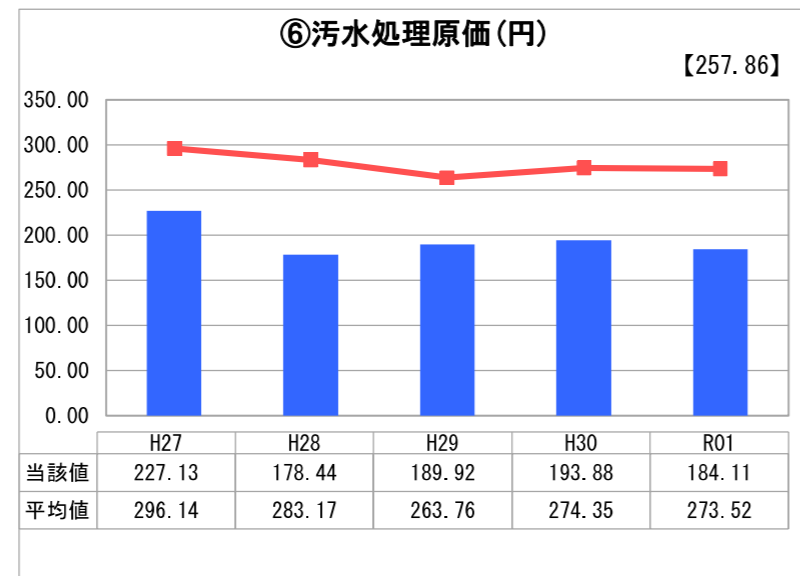
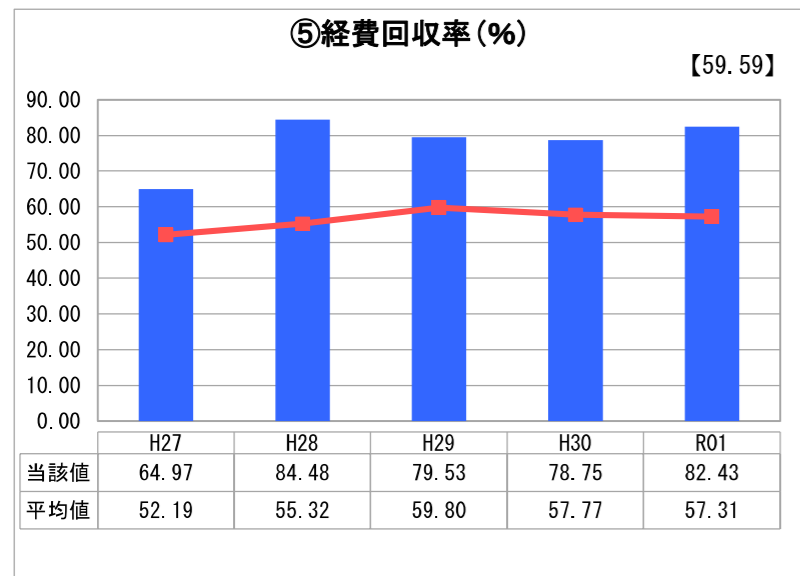
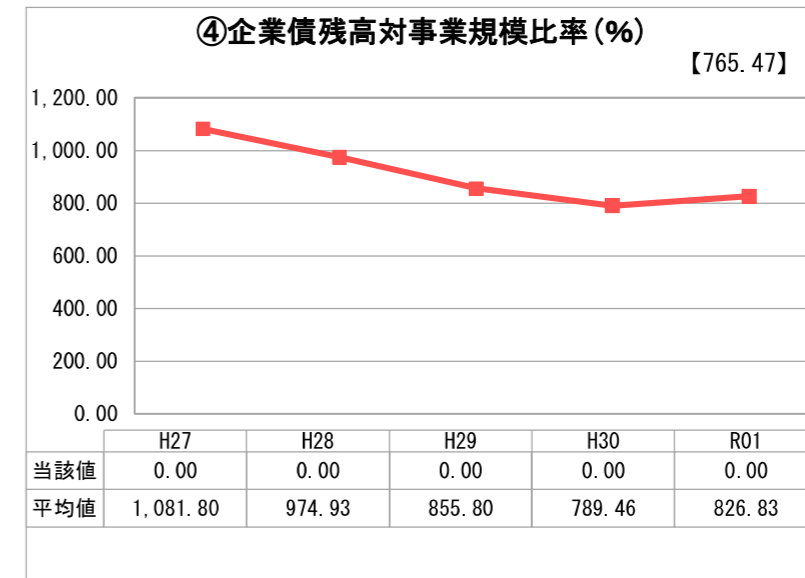
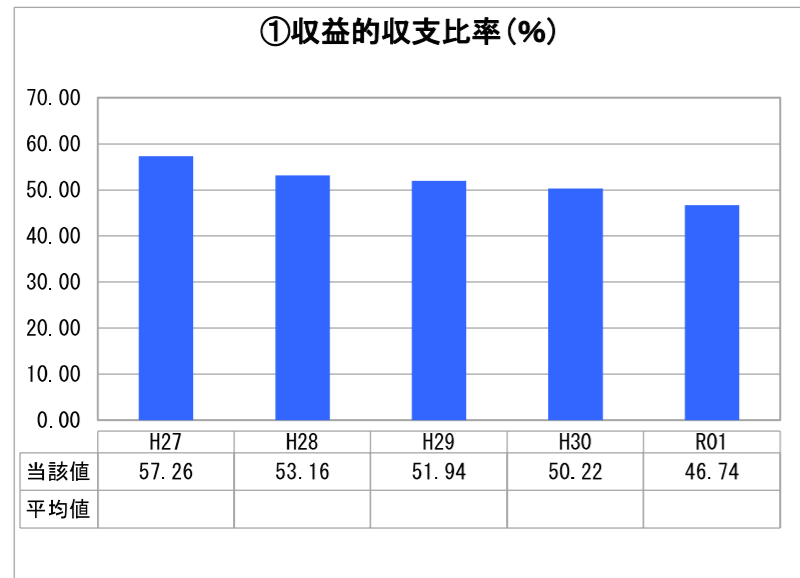
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	49.31	100.00	3,741

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
11,205	33.41	335.38
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,507	2.82	1,952.84

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

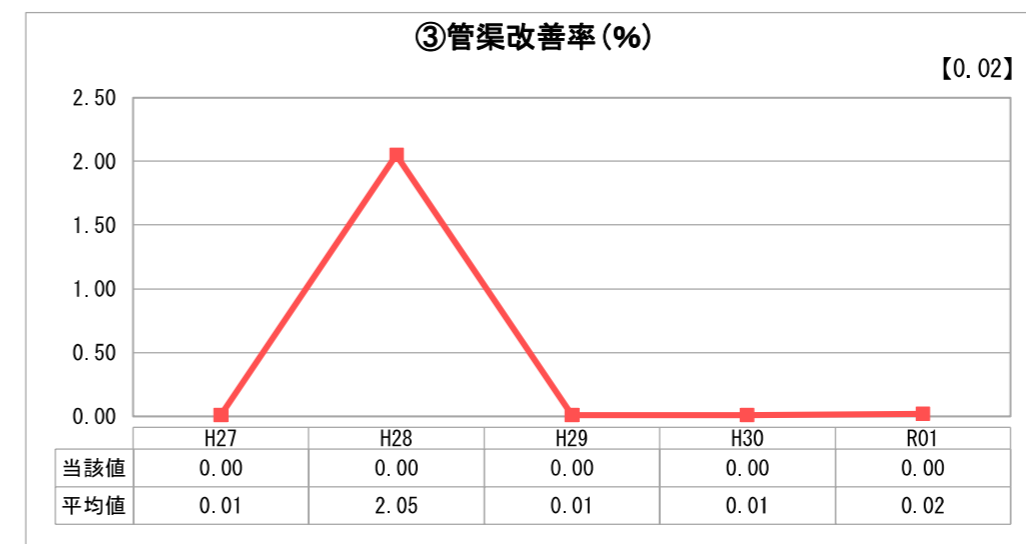
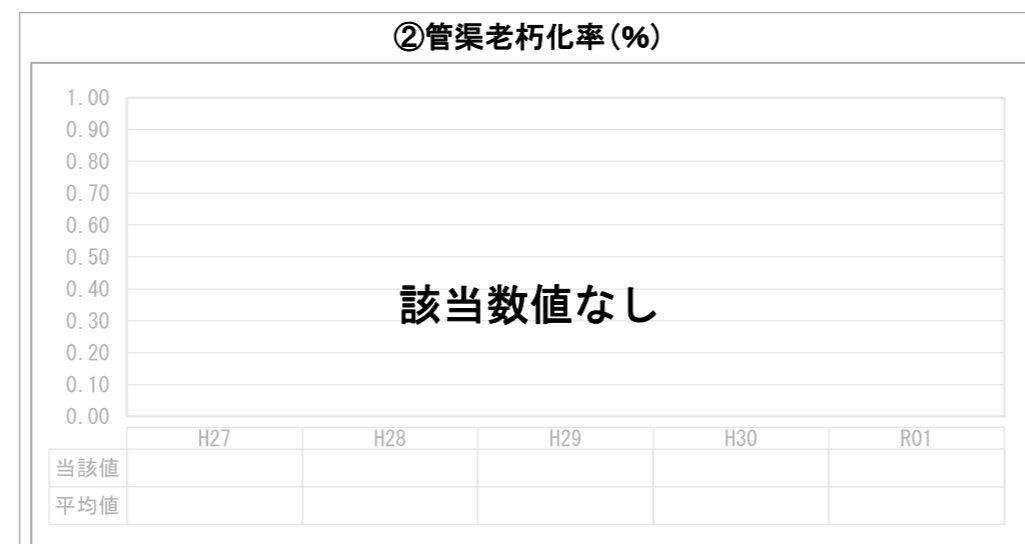
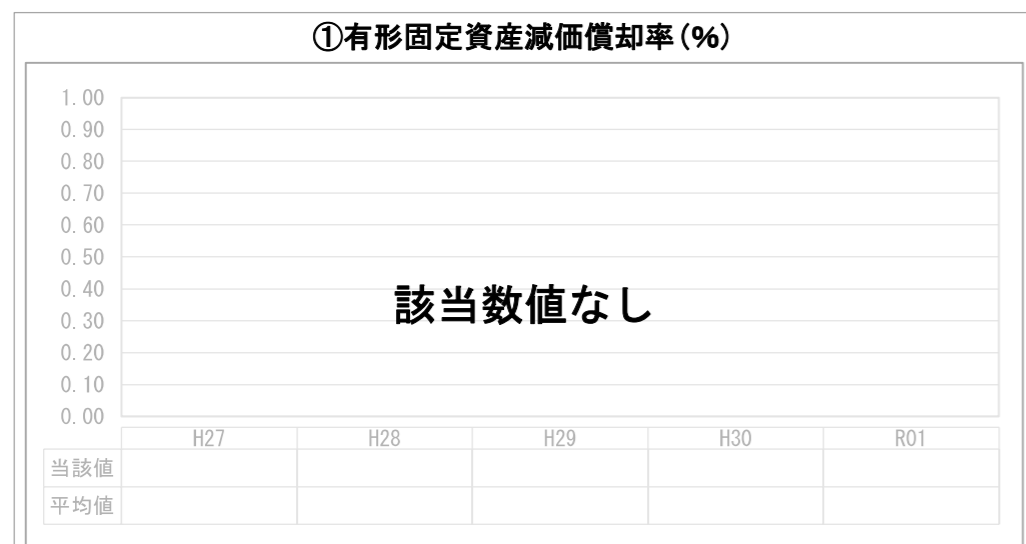
### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①収益的収支比率  
施設の老朽化が進み、維持管理費が年々増加していることから、前年度に比べ収益的収支比率はわずかに減少している。経年比較では平成28年度以降減少傾向となっていることから、使用料収入の確保等の経営改善に向けた取組みが必要である。
- ④企業債残高  
地方債残高の全てが一般会計負担額のため、当指標は0となっている。
- ⑤経費回収率  
前年度に比べ料金収入が微増したため、経費回収率は増加している。しかし、経費回収率は依然として100%を下回っていることから、未接続世帯への加入促進や料金改正等の検討等使用料収入の確保に向けた取組みが必要である。
- ⑥汚水処理原価  
前年度に比べ年間有収水量が微増したため、汚水処理原価が減少している。今後も未接続世帯への加入促進等により有収水量の確保に向けた取組みが必要である。
- ⑦施設利用率 ⑧水洗化率  
類似団体と比較するといずれも低い数値となっている。今後も引き続き通知文書の送付等により未接続世帯への加入促進を行い、施設利用率及び水洗化率の増加に向けた取組みが必要である。

### 2. 老朽化の状況について

美里町の農業集落排水事業は平成7年度に十条処理区、小栗処理区、平成9年度に広木処理区、平成10年度に沼上処理区、円良田処理区、平成16年度に駒衣処理区、平成25年度に南部中央処理区が完成し、全7処理区が供用開始となっている。すでに半数以上の処理区が供用開始から約20年経過しており、施設の老朽化により維持管理費、修繕費が増加傾向にある。機能診断や最適整備構想を基に、施設の公共下水道への接続や施設の統廃合を検討するほか、適正な機能保全を行い、既存施設の長寿命化に努め、維持管理等に要する費用の削減を目指す。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

類似団体と比較して施設利用率・水洗化率が低いことから、未接続世帯への加入促進等による接続率の向上及び料金改正の検討等使用料収入の確保に向けた経営改善の取組みが必要である。  
また、施設の老朽化や将来人口の推移を踏まえ、計画的な施設修繕や処理区の統廃合等を検討し、効率的な事業運営を目指す。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。